

X-Patch

User Guide

日本語版

X-Patch. This is SSL.

Solid State Logic
SOUND || VISION

Document History

March 2010	82BWPPJ1A	Initial Japanese Translation
June 2010	82BWPPJ1B	Network setup for X-Patch Remote V1.04 Minor miscellaneous other changes

Table of Contents

1. Introduction

X-Patch

SSL の革新的なルーティング・マネージメント・ユニット X-Patch をご購入いただきありがとうございます。この製品は、X-Patch Remote ブラウザでリモート操作ができる、16 x 16 の アナログ・ルーティング・マトリクスです。X-Patch の最もシンプルな使い方としては、入力が 16ch あり、入力されたソースを 16ch 出力のうちいずれかにルーティングして送ることができます。しかしこの X-Patch の知的なルーティング能力は、インサートセンド/リターン送りを自動的にルーティングしたり、あらかじめアウトボードを接続し設定しておけば、瞬時にルーティングすることが可能になります。

1 台の X-Patch で、128 のルーティング設定(あらかじめ設定しておく必要があります)を作成し保存することができます。またユーザーが自由に設定できる 'Chain' (チェーン)も 128個 設定でき、この良く利用する 'Chain' をルーティングに設定することもできます。MIDIコントローラーを使用してシームレスにルーティングの 'Preset' を切り替えることもできます。

最大 6 台の X-Patch をひとつの X-Patch Remote ブラウザでコントロールすることができます。複数台数の X-Patch を上手に利用すると、ボタンひと押しするだけで、大規模で複雑なルーティング操作を実行することも可能になります。

Reading Conventions

このマニュアル中では、X-Patch や X-Patch Remote ブラウザ中の主要な機能部分は、**太文字体**(ボールド体)で表記されています。

注意事項や追記情報は、細い線にサンドされた箇所にイタリック体(斜め書体)で表記してあります。

Software Versions

このマニュアルは、X-Patch Remote V1.04 もしくはそれ以上、X-Patch firmware V1.0 もしくはそれ以上のソフトウェアに基づいて記述されています。

2. Connecting X-Patch

Introduction

パッケージを開いたら、同梱されている X-Patch Remote ソフトウェアをコンピュータにインストールしてください。(詳細は Installationガイドを参照してください) インストールが終了したら右のアイコンをダブルクリックしてソフトウェアを起動してください。



X-Patch の接続例などの詳しい情報は SSLのホームページを開いて **Products** / **Music** / **X-Patch** を選択すると参照できます。

電源、オーディオ、MIDI 接続

電源アダプターをコンセントに接続し、X-Patchの背面の **POWER** ソケットに接続してください。
※電源アダプターを **MIDI IN** や **MIDI THRU** のソケットに間違って接続しないよう十分注意してください。

Ethernet ケーブルを X-Patch 背面からコンピュータへ接続してください。オーディオの接続はタスカム配列の D-sub25ピンコネクターに接続します。フロントパネルには、Ch 1 と 2 のインプットとアウトプットコネクターがそれぞれあります。

このフロントパネルのインプットコネクターは XLR と 1/4”フォーンジャックの両方が使用できる共用タイプです。

※フロントパネルの XLR の信号は背面の D-subコネクターの Ch 1 と Ch 2 にそれぞれパラレルで接続されています。前面と背面のどちらか一つを使用するようにしてください。1/4”フォーンジャックの方は接続されると、背面の D-subの信号がカットされます。

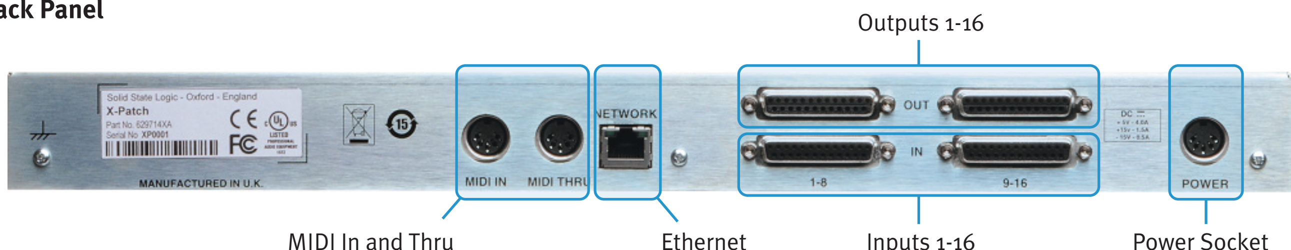
※もし背面のD-sub用コネクターを自作する場合は Installationガイドのコネクターピンリストを参照してください。

MIDI IN と **MIDI THRU** ソケットは市販のMIDIペダルを接続してください。プリセットを切替えることができます。

Front Panel



Back Panel



Remote Control Connections

X-PatchはコンピュータとEthernetで接続します。X-Patchが1台の時は直接接続してかまいませんが、2台以上の時は市販のEthernetハブを経由して接続してください。複数のX-Patchを接続する場合は１台ずつダイレクトに接続して、ネットワークの設定を個々に行った後にハブを使用して接続してください。

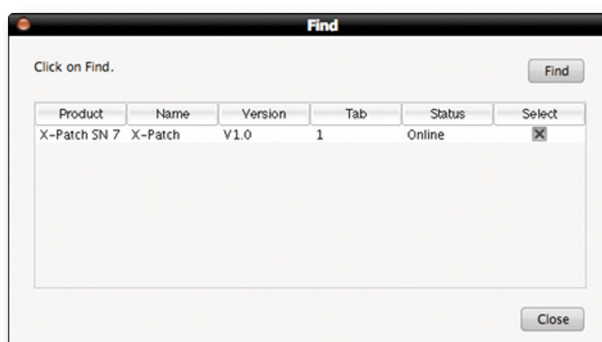
Configurating Direct Connections

X-Patchの電源をONにすると数秒でリモートブラウザーの左下に緑の文字で **X-Patch online** と表示されます。
※ **X-Patch Offline** と表示されている時はコンピュータが認識していません。

X-Patch Locator button



もし、X-Patch offlineと表示されている時は上図のような虫眼鏡ボタンをクリックしてください、以下の様な表示になります。



Find ボタンをクリックしてください。接続されている X-Patch がスキャンされて、その情報が表示されます。
２台以上の X-Patch を接続している時は、それぞれの X-Patch の情報が表示されます。使用する X-Patch の **Select** 部分のボックスに × とチェックを入れて、**Close** をクリックしてください。

もしも X-Patch Remote が X-Patch本体を正しく認識しない場合は、Ethernetケーブルや接続を確認してください。
その後 X-Patch 背面にある Ethernetコネクター部の２つのLEDを確認してください。

正常動作をしている時は、電源コネクターに近い方のLEDが点滅、そしてもう片方が点灯という状態になります。使用中にIPアドレスの変更等を行うと通信が途切れて **offline** になります。

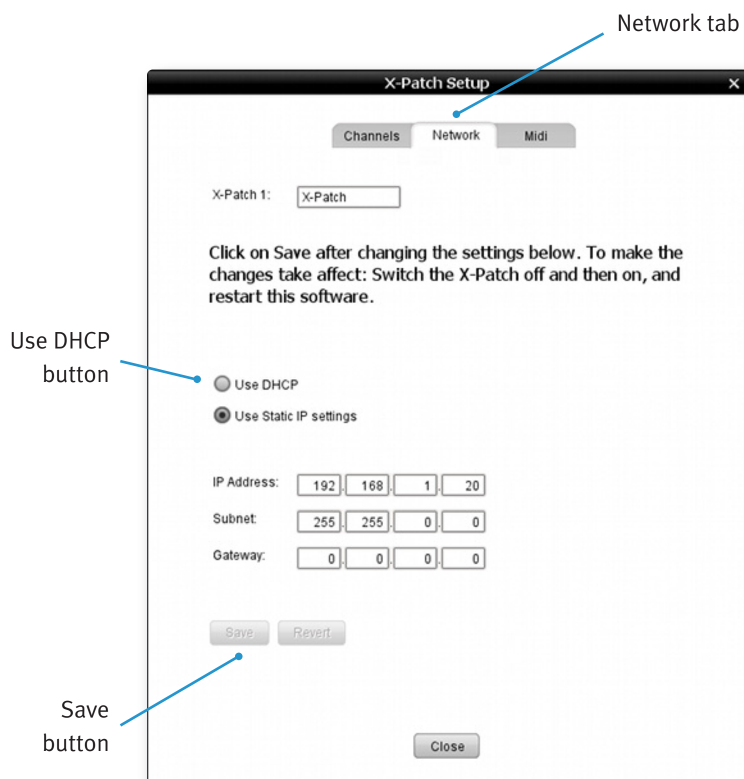
※ X-Patch とコンピュータをダイレクトに接続している時は、無線LANの機能はOFFにすることをお勧めします。

Configurating Connections Via a Network Hub

ネットワークの設定を行うには下図のように1番目のタブをクリックした後に、**Setup** をクリックします。



X-Patch Setup 画面が開きます。**Network** タブをクリックすると下図の様な表示になります。



Use DHCP にチェックを入れます。

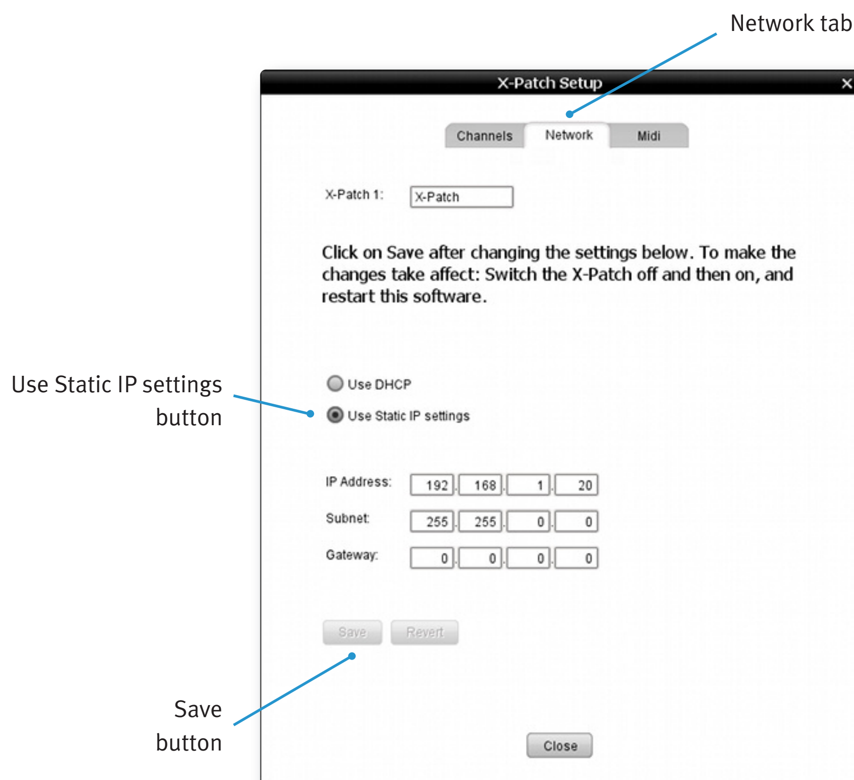
ネットワーク設定が終わったら、虫眼鏡ボタンを押して **Find** をクリックし、接続されている X-Patch が表示されている事と、**Select** にチェックが入っている事を確認してください。

Configuration of Multiple X-Patches

もし２台以上のX-Patchを使用したり、ネットワーク上に他の機器等が接続されていて干渉してしまう場合は、個別に固定のIPアドレスを設定します。この場合 **Use Static IP settings** にチェックを入れると、その下の数字を変更できます。変更後は **Save** をクリックします。

※ 個別にIPアドレスを設定する場合は、アドレスが重複しないように注意してください。

ネットワーク設定が終わったら、虫眼鏡ボタンを押して **Find** をクリックし、接続されている X-Patch が表示されている事と、**Select** にチェックが入っている事を確認してください。



Remote Overview

X-Patchはネットワーク接続されたコンピュータから、X-Patch Remoteソフトウェアを使ってコントロールされます。X-Patch Remoteソフトウェアを開くと下記のような表示になります。



ウィンドウの上部には8つのタブがあり、左から6つのタブではそれぞれ接続されているX-Patchの設定を行います。設定したいX-Patchのタブをクリックしてください。

'Backup' のタブでは設定のバックアップやデータのロードなどを行います。

'About' のタブでは、現在のハードウェアやソフトウェアのバージョンを確認でき、SSLのウェブサイトへアクセスするための情報が表示されます。

使用するルーティングのプリセットは右側の Preset List 部分をダブルクリックする事で選択できます。選択すると選んだプリセットのルーティングがセンターのウィンドウに表示されます。

チェーンの組み方の設定は下側の Chain Editor 部分で行います。チェーンの名前を変更したりそのチェインを消去したりする設定は左側の Chains List 部分で行います。

Backup, Restore and Clear

X-Patchの設定をこまめに完璧にセーブする事はそんなに重要なことではありません。なぜなら設定が変更されると、X-Patchの本体側でその状態を記録しているからです。X-Patch Remoteソフトは起動すると本体から現在の設定情報を読み取り表示します。

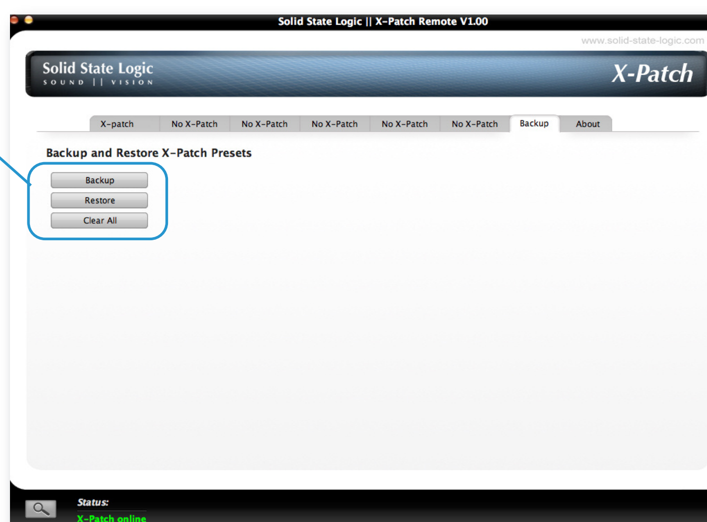
しかし現在使用している設定を128個のチェーンやプリセットも含めてコンピュータ上のどこにでもｘｍｌファイルとして保存できるので、全体の設定の持ち運びやバックアップを取るには便利です。

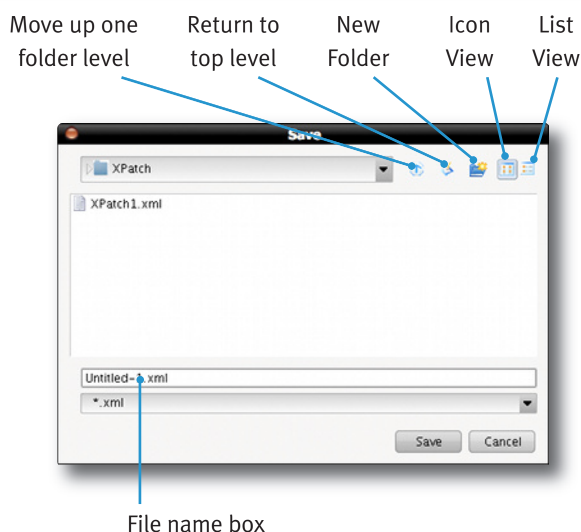
---

*注意: チェーンやプリセットの設定画面にある **Save** は現在設定中のそれぞれのチェーンやプリセットを本体に保存する為のもので、全体のバックアップを取ったり、逆にバックアップデータをロードしたりすることはできません。*

バックアップや復元の機能を使うには **Backup** のタブをクリックしてください。

左の方に **Backup** と **Restore** と **Clear All** という3つが表示されます。現在の設定を保存したいときは **Backup**、保存済みのデータを呼び出したい場合は **Restore** をクリックします。以下のような表示になります。





ファイル名と保存場所を選択して **Save** (保存)をクリックします。**Restore** の場合も同様にファイルを指定して開くをクリックするとデータが読み込まれます。**Clear All** を選択すると現在の設定が全て消去されます。一度確認画面が出ますので、 **OK** をクリックすると消去されます。

---

*注意: **Clear All** を使って消去した場合でも X-Patch の名前だけは残ります。*

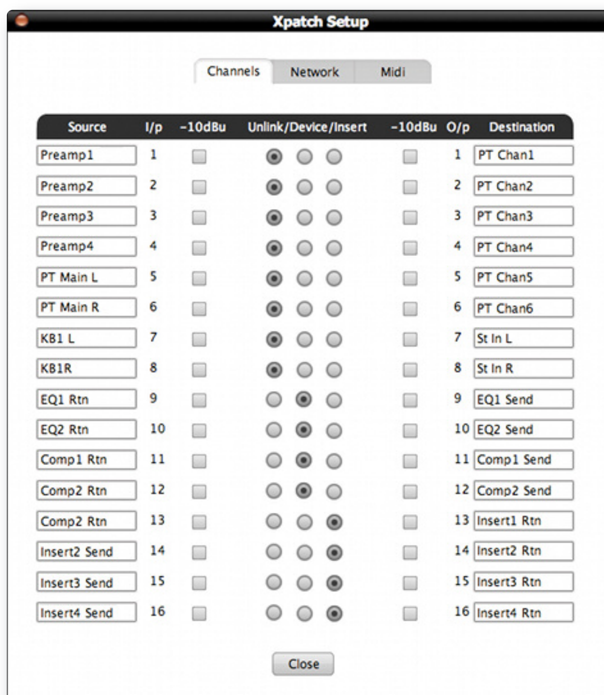
X-Patch Setup

以下のページではインプットやアウトプットの設定、チェーンやプリセットの設定方法を説明します。

Defining Inputs and Outputs

出荷時の状態では、信号のルーティングが設定されておりませんので、そのままでは音が出ません。

個々のチャンネルの設定を行うにはメインのウィンドウの **Preset Editor** 内にある **Setup** ボタンを選択し以下のウィンドウで設定します。メインウィンドウに戻るには **Close** を押します。



上図は一つの例で自由に設定できます。

左側がインプット、右側がアウトプットとなります。クリックするとチャンネルの名前を自由に設定できます。図の例では接続先の名前となっています。

インプット、アウトプットはそれぞれ **+4dBu** と **–10dBu** のレベル切替えができ、チェックを入れると **–10dBu** となります。

---

*チェーンまたはプリセットで使用されているチャンネルはこのウィンドウで設定変更ができません。変更したい場合は、一度 **Close** を押してメインウィンドウに戻り、アサインされているチャンネルを解除してください。*

それぞれのチャンネルはクリックすることで **Unlinked** と **Device** と **Insert** を選択できます。

I/O Type	Connected to...	Intelligent Routing
Unlinked	...signal sources and destinations which are not related to each other	インプット、アウトプット共にそれぞれが無関係で独立しており、メインウィンドウで信号の経路を自由にアサインできます。 Unlinked に設定したチャンネルはチェーンに組み込む事はできません。図の例ではマイクプリアンプ等をインプット側に接続し、アウトプット側はＤＡW等に接続しています。
Device	...the input and output of an outboard signal processing unit	Device に設定したチャンネルはアウトボード(イコライザーやコンプレッサー等)に接続します。 Device に設定したチャンネルはチェーンに組み込む事ができるようになり、以下の Insert を使用するときに連動します。 アウトボードとの接続時はインプットとアウトプットを同じチャンネル番号に接続してください。図の例では、イコライザーの1番 (EQ1) はインプット、アウトプット共に 9ch に接続されています。
Insert	...console channel insert send and return	Unlinked と同様にチェーンを組む事には使用できませんが、アウトボードをインサートする場合に高度なルーティングを自動で行います。 Insert に設定したチャンネルのアウトプットを、アウトボードの接続されているチャンネルへルーティングした場合、自動的にアウトボードの接続されているアウトプットを Insert に設定したチャンネルのインプットへルーティングします。Insert に設定したチャンネルはコンソール等がある場合、コンソールのインサートへ接続すると大変便利です。

次ページに例を挙げて説明します。

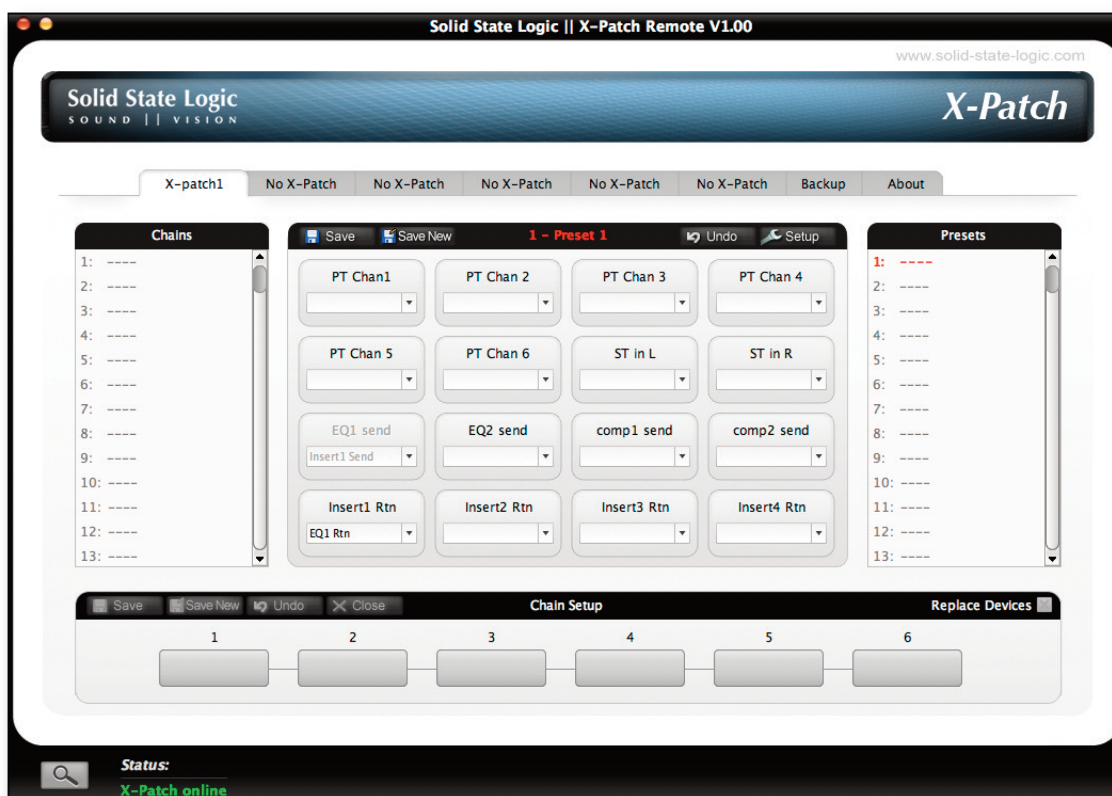
図の例で説明します。

この例では、13ch は **Insert** に設定されていて、コンソールのインサートへ接続されています。**Source** 名は、Insert1 Send、**Destination** 名は、Insert1 Rtn です。

9chは **Device** に設定されていて、アウトボードのイコライザーへ接続されています。

Source 名は、EQ1 Rtn、**Destination** 名は、EQ1 Send です。

コンソールから 13ch へ来ている信号に 9ch のイコライザーを使用してコンソールに戻したい場合、メインウィンドウで 13ch のルーティングを 9ch に設定します。



すると上記のように 9ch の EQ1 Send 部分のルーティングが自動で Insert1 Send と設定され、クリックできない状態になります。これはイコライザーからコンソールへ信号を送ると設定したことで、もう一つのルーティング、つまりコンソールからイコライザーへ信号を送るルーティングを X-Patch が自動で行ったということです。

Unlinked でも同様のルーティングはできますが、自動で設定されないので２箇所設定することが必要となります。

Insert と Unlinked の違いは上記のようなものになります。

この機能を有効に使う為にはアウトボードを接続するチャンネルは **Device** に設定しインプットとアウトプットを同じチャンネルに接続してください。

図例の様な接続方法で 1ch も Insert に設定すれば、マイクプリアンプからの信号にコンプレッサー等をインサートして、ＤＡＷのインターフェイスに送る場合などにも便利です。

Naming an X-Patch

それぞれの X-Patch には名前をつける事ができます。
Setup をクリックしてセットアップウィンドウを開き、**Network** タブをクリックします。下記の表示となります。

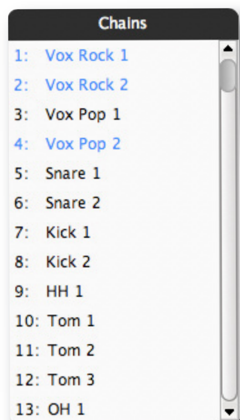
X-Patch 1：の部分に好きな名前を入力してください。

設定が終了したら、**Close** をクリックしてメインウィンドウに戻ります。

Chains

チェーンを使うと複数のインプットやアウトプットを連鎖的に接続でき、それを保存して他のチャンネルにインサートすることができます。

例えば、ボーカル録音時にお気に入りのマイクプリアンプとイコライザーとコンプレッサーの組み合わせがあったとします。これをチェーンとして保存しておくと、各機材間の物理的なパッチ作業が不要になるとともに、順番を換えた組み合わせを別に保存しておけば、ワンクリックで最適な組み合わせを選択できるようになります。



チェーンはメインの左側のウィンドウに表示されます。文字の色によって下記のように意味が変わります。

文字の色	意味
グレー色	チェーンは未設定です
黒色	チェーンは設定されているが未使用です
青色	チェーンはプリセットに使用中です
赤色	チェーンは現在編集中です

Creating Chains

例えば、ボーカル録音時にお気に入りのマイクプリアンプとイコライザーとコンプレッサーの組み合わせがあったとします。これをチェーンとして保存しておくと、各機材間の物理的なパッチ作業が不要になるとともに、順番を換えた組み合わせを別に保存しておけば、ワンクリックで最適な組み合わせを選択できるようになります。



※ プリセットが編集中でセーブされていない時は、チェーンの編集は行うことができません。上記の画面で編集ができない時は、中央のウィンドウの上方左側にある ***Save*** *をクリックしてプリセットを保存してください。*

Chain Editor のウィンドウには６つの箱があり、そこをクリックする事で 好きなチェーンを組むことができます。上の画面では左から右へ、数字では１から６へ信号は流れます。６つの箱の部分をクリックするとドロップダウンリストが出るので、その中から必要な **Source** (インプット名) を選択してチェーンを組み立てて下さい。

ウィンドウの右上にある **Replace Devices** の部分にチェックが入っていると、箱の中の **Source** は、新しく変更したものによって上書されますので、例えば 2番の部分を EQ から COMP に入れ替えたい場合に便利です。

チェックが入っていない場合は、箱の中の **Source** を変更しても上書きされず、古い設定が右方向に移動してそのまま残る形になるので、例えば 以前の設定を残したまま 1番と 2番の間に EQ を新たに挿入したい場合などに便利です。

チェーンが組み終わったら、ウィンドウ左上の **Save** をクリックして保存してください。別名で保存したい場合は **Save New** です。この場合 **Chains** リストに新しいものが追加されます。

※ もし現在編集しているチェーンが既にどこかの Preset で使われている場合、Saveはできず、 ***Save New*** *のみとなります。*

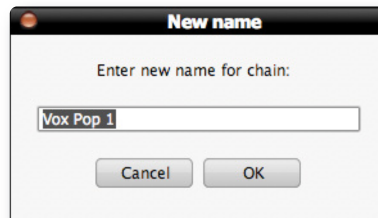
Undo ボタンを押すと直前に保存した状態に戻ります。

Naming Chains

チェーンに新たに名前をつけたり、名前を変更したり、作成したあるチェーンを消去したい場合は、チェーンリストの中から右クリック (ctrl+click) で選択するとドロップダウンメニューが出ます。

それぞれ **New Name** (新たに名前をつける)、**Rename Chain** (名前を変更する)、 **Delete Chain** (作成したチェーンを消去する) を選択して行ってください。

名前の変更時は下記の **New Name** ポップアップウィンドウが表示されますので、名前を変更後、**OK** を押して下さい。



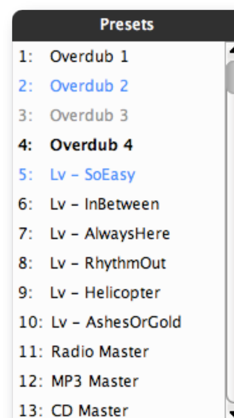
Presets

インプットとアウトプットの設定とチェーンの設定が完了したらそれぞれのプリセット中のルーティング設定を行います。

※ 各チャンネル設定とチェーン設定を行う前に ルーティング設定を始めると、様々な設定が大幅に制限されますので、御注意下さい。

プリセットはメインウィンドウ右側のPresetsウィンドウに表示されます。

Preset 文字の色	**意味**
グレー色	プリセットは未設定
黒色	プリセットは設定されているが未使用
青色	プリセット中にチェーンが使用されている
赤色	プリセットは現在編集中
太文字	中央のウィンドウに現在表示されている



Creating Presets

プリセットを設定するには **Presets** ウィンドウ内で目的のプリセットをダブルクリックするか、または右クリック (ctrl+click) し、ドロップダウンメニューから **Load Preset** を選択します。選択されたプリセットのルーティングが中央のウィンドウに表示され、**Presets** ウィンドウ内の文字は**太字**になります。

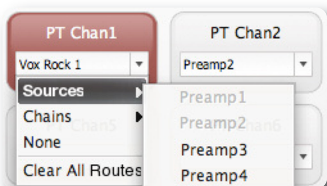
*※ チェーンが変更され保存されていない場合、プリセットの編集は行うことができません。この場合 **Chain Editor** ウィンドウ内で、**Save** を押してからプリセットの編集をおこなってください。*

プリセットを選択すると中央のウィンドウに選ばれたルーティングが表示されます。



16個の箱があり名前がついています。この名前は **Setup** で設定したアウトプット側の名前です。

ルーティングの基本的な考え方は、あるアウトプットにどのインプットまたはチェーンから信号を接続するのかを指定する方法で行います。



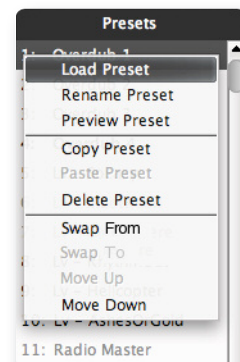
ルーティングを設定したい箱のタブをクリックすると、設定した **Sources** や **Chains** などが表示されますので、リストの中から選択してください。**None** では何も選択されず空欄になります。**Clear All Routes** では全てのチャンネルでルーティングが解除されて空欄となります。この場合ポップアップウィンドウが表示され再確認が要求されますので、**OK** を押して下さい。

ルーティングが完了したら、**Save** (上書き) または **Save New** (別名で保存) を押して現在のルーティングの状態をプリセットに保存します。**Undo** を押すと直近の保存状態にルーティングが戻ります。

Editing the Presets List & Deleting Presets

チェーンと同様に右クリック (ctrl+click) で、**Presets** リストにある **Rename Preset** を選択すると **New Name** ポップアップウィンドウが表示され名前の変更ができます。

右クリック (ctrl+click) で表示されるメニューは他に右図のようなものがあります。



Preview Preset を選択すると、編集中のプリセットはそのままで、選択したプリセットのルーティングが別ウィンドウで簡易表示されます。

Copy Preset と **Paste Preset** を使うと作成済みのプリセットをコピーできます。

プリセットを削除したい場合は **Delete Preset** を選択します。

プリセットの順番を入れ替えたい場合は **Swap From** と **Swap To** を使います。
例えば１番と５番を入替えたい場合、１番を **Swap From** で選択した後、５番を **Swap To** で選択します。

Move Up と **Move Down** を使うと選択したプリセットの順番が上下に移動します。

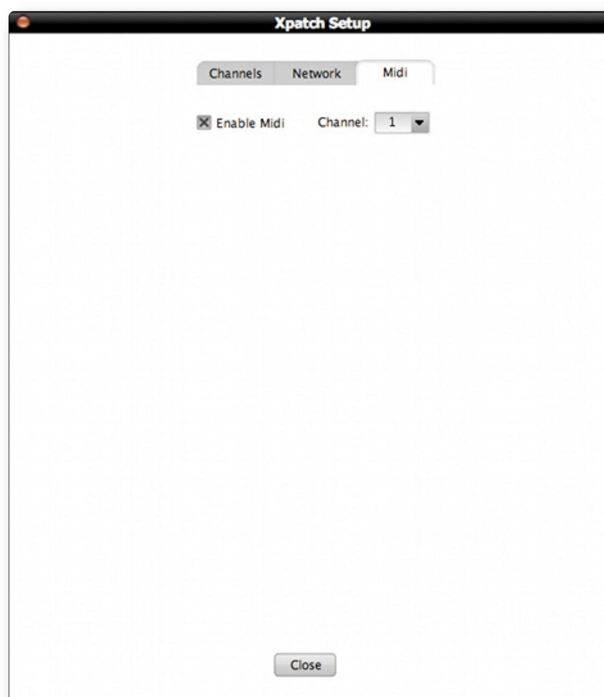
これらの機能を使うとポップアップウィンドウが表示され再確認を要求されますので、確認後 **OK** を押して下さい。

※ プリセットに名前を付けず「Preset1」などのままで、Copy、Paste、Swap、Move の機能を使うとコピーまたは移動されたプリセットの名前が自動で、順番の番号へ変更されてしまいます。混同を避ける為、プリセットは保存後、名前を手動で付けてください。

Selecting Presets using MIDI

MIDI のプログラムチェンジメッセージにより現在使用しているプリセットを別のプリセットへ変更することができます。
この場合、X-Patch本体背面の **MIDI IN** コネクターへMIDIペダルまたはＤＡＷからMIDIケーブルを接続してください。
X-Patch本体背面の **MIDI THRU** コネクターは複数台のX-Patchをコントロールする場合に使用してください。

MIDIコネクターを使用する場合、**Setup** ボタンを押して **Midi** タブをクリックすると以下のウィンドウが表示されますので、**Enable Midi** のチェックボックスにチェックを入れてください。



※ MIDIプログラムチェンジメッセージについての詳細情報は、お使いの MIDI 機器の取扱説明書を御参照下さい。

Solid State Logic
SOUND || VISION

Visit SSL at: www.solidstatelogic.com

82BWPP01B

お問い合わせ
xlogicsupport@solid-state-logic.co.jp